

# JAグループ宮城 災害復興ニュース (総合版)

第 8 0 号

【平成 27 年 9 月 3 日 (木) 発行】  
発行：JAグループ宮城災害復興本部  
編集：JA宮城中央会  
〒980-0011 仙台市青葉区  
上杉 1 丁目 2 番 16 号 JA ビル宮城 6F  
電話番号：022-264-8207  
FAX 番号：022-216-4466  
E-mail：jataisaku@gmail.com

## 《目次》

1. 農業振興、震災復興などでJAグループが県議会・県農林水産部と懇談会
2. JA名取岩沼管内の被災生産者に土壌改良剤・農機購入費など支援
3. 全農みやぎが農業復興支援「オリジナルディナーキャンペーン」で県産農畜産物をPR
4. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第48次請求

### 1. 農業振興、震災復興などでJAグループが県議会・県農林水産部と懇談会

JAグループ宮城は8月10日、仙台市内で県議会議員、県農林水産部との懇談会を開き、今後の農業振興策や東日本大震災からの復興などについて意見を交換しました。

JAグループは、中央会の竹中智夫常務が第38回JA宮城県大会の組織協議案に



県議会議員、県農林水産部幹部、JAグループが一堂に会した懇談会

ついて説明しました。この中で、10月1日に「担い手サポートセンター」を新しく設置し、担い手経営体の支援を、現在の沿岸5JAから全県域に広げていくことなどを紹介しました。

県議会からは、自民党農林水産議員連盟の議員30人、県農林水産部は後藤康宏部長ら幹部17人、JAグループは中央会の石川壽一会長をはじめ組合長、県連合会代表など、24人が出席しました。

農林水産部の後藤部長は、震災からの再生と競争力のある農林水産業の実現に向けた重要施策について、自民党県民会議政調会長の高橋伸二議員は、県議会で7月に採択した環太平洋連携協定(TPP)交渉に関する意見書について説明しました。

意見交換では、2017年に開かれる第11回全国和牛能力共進会が、「仙台牛」を日本だけでなく世界にアピールできる重要な大会であり、県をあげて盛り上げていこう、という意見などが出されました。

## 2. JA名取岩沼管内の被災生産者に土壌改良剤・農機購入費など支援

農林中央金庫とJA名取岩沼は、東日本大震災で被災した生産者の土壌改良剤や農業機械等の購入費を支援、8月27日に美田園地区で贈呈式を開きました。

震災で甚大な被害を受けた農林水産業の復興を支援する「JAバンク東日本大震災営農再開支援」を活用し、JA管内で206件を支援しました。

代表して目録を受け取った(株)美田園ファームの大友正一社長は、「我々農業者も新しい農業を目指して邁進するしかない。この地域ならではの農業を確立できる様、頑張っていきたい」と述べました。



榎本支店長（中央）から目録を受け取る大友社長（左）

農林中金仙台支店の榎本浩巳支店長は「被災地域が活性化することが被災者の方、JA名取岩沼、農林中央金庫、共通の思いであると認識している。この支援が少しでも地域活性化の役に立つことを願います」と挨拶しました。

JA名取岩沼の佐藤富志雄組合長は「沿岸部でも圃場整備をはじめ、新たな農業法人が発足するなど、復興に向けて着実に歩み始めている。当JAとしてもこれまで以上に農業者や各関係機関との連携を密にし、現場の要望に添った支援が出来る様取り組んでいく」と意気込みを語りました。

## 3. 全農みやぎが農業復興支援「オリジナルディナーキャンペーン」で県産農畜産物をPR

JA全農みやぎは8月28日、農業復興支援「オリジナルディナーご招待キャンペーン」の当選者25組50人を、ホテルメトロポリタン仙台のディナーに招き、県産農畜産物のおいしさと安全・安心をPRしました。

当選者はそれぞれの素材の説明を受けながら、「仙台牛と野菜のポット・フー仕立て」「宮城野豚みのりの自家製パテ・リエット・ジャンボン仕立て」など、厳選素材のディナーコースを堪能しました。



全農オリジナルのディナーコースを楽しむ当選者

全農宮城県本部運営委員会の三浦静也副会長は「宮城にはおいしい食材がいっぱいあります。皆様の食卓にぜひ取り入れてください」と参加者に呼び掛けました。キャンペーンは6月1日から7月15日まで実施し、2,000通を超える応募がありました。

## 4. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第48次請求

JAグループ東京電力原発事故農畜産物損害賠償対策宮城県協議会は8月31日、第48次請求として東電に7,881万円を請求しました。内訳は、牧草の利用自粛等にかかわる損害が3,959万円、牧草地の除染にかかわる損害が3,920万円など。